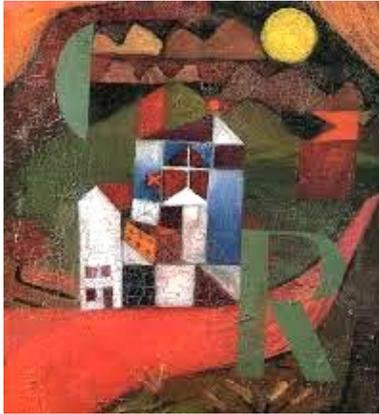


# 樹木と絵画の交差点

## 第 16 回 ～クレーとバラ～

パウル・クレー（1879-1940）は、ドイツで活躍したスイス出身の抽象画家です。クレーは優れた画家であると同時に、ドイツの伝説的な美術学校“バウハウス”で教鞭をとっていた美術理論家でもあります。

自らの絵画制作を通して思索し、その理念を確かめるかのように自作の絵具と下地で新たな技法を見つけ、色々なスタイルの作品を描きました。文字や記号をテーマにしたり、農家で手に入れたジャガイモの袋(麻布)をキャンバスの代わりに使用するなど、クレーの奔放な想像力(創造力)の源には、音楽や自然科学に関する広い見識がありました。



### パウル・クレー（1879-1940）

R 荘（1919 年）バーゼル美術館蔵

幾何学的な線で構成された幻想的な月夜の道。そこに突如現れた“R”の文字。この作品のように、クレーは意味から解放された宇宙的な世界観で様々な作品を創造しました。自らの手記に「芸術の本質は、見えるものをそのまま再現するのではなく、目に見えないものを見るようにするものである」という言葉を残しました。

## 森羅万象を絵画にする

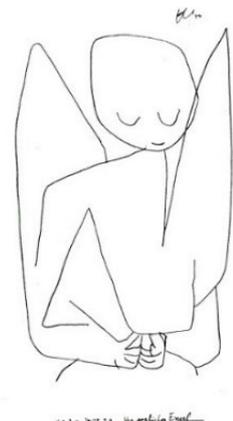
音楽教師の父と声楽家の母のもとに生まれたクレーは、少年時代から音楽に親しみ東西の文学に精通し、そこから多様な絵画世界を創造しました。まるで子供が空想した世界のように幻想的で素朴なクレーの絵ですが、その根底には一貫した絵画理論があります。自然を観察し、力学、色彩論、博物学などを援用し、「造形力(作品を創る力)」という捉えがたいものを「形態(フォルム)」「運動(エネルギー)」などの要素からその機能を解明、秩序立てようとしていました。下図「セネキオ」という作品では丸や幾何学であらわされた植物(サワギク)が人の顔と組み合わせあって、植物の擬人化のようになっています。クレーの絵画世界では「植物」と「顔貌」は融合することができるのです。「絵の中で森羅万象は統合できる」と証明するかのよう、クレーはお気に入りのモチーフを唐突に組み合わせています。その他クレーが好んだモチーフは「天使」「庭」「魚」「矢印」「アルファベット」「バラ」などです。



セネキオ(さわぎく)  
(1922 年)  
バーゼル美術館蔵



魚の魔法  
(1925 年)  
フィラデルフィア美術館蔵



忘れっぽい天使  
(1939 年)  
パウル・クレー・  
センター蔵

## 時間と空間を巡る思索と実験

クレーは優れたバイオリニストでもあり、画家になる前に11歳で地元の管弦楽団の非常勤団員になるほどの腕前でした。画家クレーは音楽を絵画で表現するため思索を巡らし、実践しました。「時間の芸術」である音楽の『リズム・音階・和音』の要素を、「空間の芸術」である絵画の『点や面の反復・曲線・色彩の調和』などに当てはめて、バッハの三声楽章の楽譜を線や面の造形的表現に置き換えるなど、楽曲の構造を造形化する実験をしました。

下左図「木のリズム」では木の葉をわたる風とさやかな響き、そしてそれを楽譜に起こして眺めているような感覚を受けます。「花開いて」では静寂の中から微かに聞こえるトレモロの音色がぼつぼつと反響してくるようです。



左図：  
**木のリズム**  
(1914年)  
収蔵場所不明

右図：  
**花開いて**  
(1934年)  
ヴィンタートゥール  
美術館蔵

## バラがあらわすもの

クレーの墓碑にはこう刻まれています。「*ぼくの存在はこの世でとらえることができない。それはぼくの棲家が死者たちのもとにあるからだ。そしてまだ生まれてこない者たちのもとにあるからだ。*

クレーのまなざしは地球を遠く俯瞰し、時間や空間を遠く隔てた現世ではない場所に向いているようです。クレー作品にたびたび登場する「バラ」は、そんなクレー的世界によく似合っているように感じられます。

「バラ」はクレーや当時のヨーロッパの人々にとって、どんな意味を持つモチーフだったのでしょうか。



**花の神話** (1918年)  
シュブレンゲル美術館蔵



**気高いバラ**  
制作年、収蔵場所不明

バラはヨーロッパ文学の歴史上、極めて伝統的な花です。イタリアの詩人ダンテが記した西洋文学の古典、「神曲」天国篇では、光でできたバラが最高天に輝き、天上界を彩ります。他、シェークスピアのソネット(十四行詩)、イングランド王朝を象徴する花の紋「テューダーローズ」など、バラはキリスト教的世界観のシンボルであり、中世～近世ヨーロッパの人々のアイデンティティの象徴ということもできるでしょう。

翻って、クレーのバラのモチーフも意識されなかったにせよ、ヨーロッパ精神を

受けて選択されたものなのではないでしょうか。堂々と誇り高く、作品のタイトルにもあるように「気高い花」として描かれています。画面の中でまっすぐに立ち、まるで宇宙と交信しているかのように感じられます。



**バラの風** (1922年)  
パウル・クレー・センター蔵

吹き荒れる風の運動(エネルギー)のなかにあって揺るがずに咲くバラが印象的です。矢印は荒れる風とバラを取り巻く空間を同時に表現しています。クレーは絵の中によく矢印を用いました。地上と宇宙、カオスとコスモスといった両極の世界の間の「中間領域」で働く力を“矢印”という記号に託して描きました。右下方の鉢に植えられた植物のようなものが、下向きの矢印に見えるのが面白いです。クレーの絵画世界では様々な変容が起こり得ます。定型的でない創造的なプロセスを重要視するクレーは、恐らく最初から配置を決めることはせずに絵を描きながら構成を考えて、絵が生成する生々しさを大切にしていたのではないのでしょうか。

## バラについて



**ノイバラ(*Rosa multiflora*)**  
野生種(半つる性)、小輪、  
一季咲き、平咲き

バラは落葉(つる性)低木植物で、バラ科バラ属に分類されています。原種は東アジア～東南アジアが主産地で、そこから中近東～ヨーロッパに伝播していったものと考えられています。バラの品種数は10万とも20万ともいわれますが、その多くは交配された園芸品種で、そのもととなったバラ属の野生種はおよそ130-150種、ときには200種ともいわれています。現在、主な園芸品種はオールドローズ、モダンローズの系統に分類されます。

日本に自生する野生種の代表格ノイバラ(*Rosa multiflora*)は、栽培バラの台木としてよく使われていて、モダンローズの主要系統であるフロリバンダの祖先種でもあります。

今も交配が続くモダンローズではハイブリッド・ティー、フロリバンダ、ポリアンサ、シュラブ、ミニアチュアなどの分類がありますが、個々の品種の系統分類については地域や研究者ごとに様々で画一されたものがないのが実情です。

バラの品種名は‘イングリッド・バーグマン’や‘マリア・カラス’など有名な女優や歌手の名前がつけられているもの、‘プリンセス・オブ・ウェールズ’や‘プリンセス・ミチコ’などヨーロッパ王室の



左図 ‘ポール・ゴーギャン’ ハイブリッド・ティー(半直立性)、  
中～大輪、四季咲き、八重平咲き  
右図 ‘カミーユ・ピサロ’ フロリバンダ(半直立性)、  
中輪、四季咲き、丸弁高芯咲き

撮影場所：日比谷公園  
(東京都千代田区)

女性や日本の皇室の妃殿下の名前を冠したものなど、あでやかで高貴なバラのイメージにふさわしい名前が付けられています。



### ‘パウル・クレー’

フロリバンダ(木立性)、四季咲き、中輪、  
カップ咲き~ロゼット咲き  
写真提供：忽滑谷史記

一方‘ポール・ゴーギャン’、‘カミーユ・ピサロ’など画家の名前のついたバラも数多くあり、ピンク~オレンジの温かみのある繊細な色彩で咲く‘パウル・クレー’もそのひとつです。‘パウル・クレー’の作出者、<sup>ぬかりやふみのり</sup>忽滑谷史記さんに話をお聞きしました。オレンジピンクの柔らかい花の色合いからクレーの絵をイメージして品種名を思いつき、クレーのご遺族の許可を得て命名されたということです。花色が季節などによって変わるそうで、春や初秋はオレンジブレンドのピンク色、夏はオレンジ色、晩秋から冬にかけては濃いピンク色で咲きやすくなります。その花色の変化について、ピンク~赤色のアントシアニン<sup>アントシアニン</sup>は気温が低いと濃くなり、気温が高いと薄くなりやすい。逆に黄色~オレンジ色のカロテノイド<sup>カロテノイド</sup>は気温が高いほど濃くなりやすい。また、色素の生成は酵素反応による生合成によってできるものなので、温度によって花色の変化が起こるのではないかとご自身の経験による推測を伺いました。長いあいだ花を咲かせる四季咲きバラならではの花色の変化ということです。見た目の美しさ、花の香りを楽しむ他にも、花色の変化を観察することもバラ観賞の楽しみのひとつになりますね。

#### 《引用文献》

「パウル・クレー」フェリックス・クレー著 矢内原伊作、土肥美夫訳 みすず書房 1962年 p.90

#### 《参考文献》

「造形思考」(上)(下) パウル・クレー著 土方定一、菊盛英夫、坂崎乙郎訳 筑摩書房 2016年 (ちくま学芸文庫)

「もっと知りたいパウル・クレー 生涯と作品」新藤真知著 東京美術 2011年 (アート・ビギナーズ・コレクション)

「新・薔薇大図鑑 2200」草土出版著 山と溪谷社 2015年

「バラ ハイブリッド・ティーとフロリバンダ」藤岡友宏著 NHK出版協会 2009年 (NHK 趣味の園芸 よくわかる栽培 12か月)

#### 《参考 URL》

「商品ラインナップ」デルバール社 ホームページ

<https://www.delbard-japon.com/> (参照 2022-7-14)

「薔薇モチーフの変遷 (1) -古代から中世-」金子直一

[https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository\\_action\\_common\\_download&item\\_id=40650&item\\_no=1&attribute\\_id=26&file\\_no=1](https://kanazawa-u.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=40650&item_no=1&attribute_id=26&file_no=1)(参照2022-7-14)

《取材協力、写真提供 (敬称略) 》

忽滑谷史記 (Apple Roses)